

「あれは貿貿一八本だ。一八〇本を婚資としてもらつたからな。その一〇分の一を支払つたんだよ。まあレシートみたいなものだな。」

「そうか、あれはレシートだつたのか。やつぱり花嫁は買われた」のだ。

純白のウェディングドレス

それから二、三ヶ月が過ぎたころ。いつのように村を歩き回つていると、あの日の花嫁が夫を連れて村に戻つてきていたところに出くわした。村の教会で牧師の祝福を受けるのだという。純白のウエ

純白のウェディングドレス



小屋の錠が外され、なかから
花嫁が出てくる。
父親(赤いシャツの男性)も
涙をこらえている



村の教会に向かうところ。ウェディングドレスは借りてきたものだという



花嫁はバナナなどの食料と一緒に
トラックの荷台に載せられた

うに、あつさりと「買う儀礼」は終わった。
簡素であつただけに、この儀礼で何が
おこなわれたのかは明確である。ム「側
が貿貿を支払つて、花嫁を手に入れる。
まさに「買う儀礼」の名のとおりのこと

バブア＝ニューギニア、ニューリブリテン島東端の町ラバウル。赤道のすぐ南に位置するこの町に、真上から太陽が照りつけてくる一〇月のある日の午後のこと。
わたしは隣人の家の庭にある大きなマンゴーの木の下でビンロウをかじりながら、ヴァルククルがはじまるのを待っていた。
町の近郊に暮らしているトーライ族のことばでヴァルククルとは「買う儀礼」を意味する。彼らの貝殻のお金(貝貨)の使い方について調べていたわたしは、近所でこの儀礼がおこなわれると聞いて駆けつけたのである。



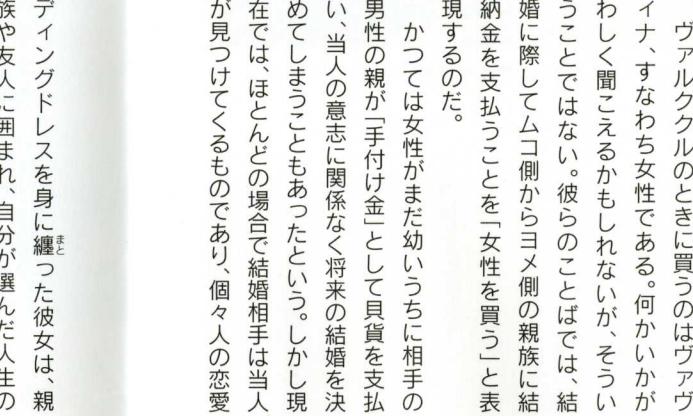
花嫁を「買う」

深田 淳太郎 (ふかだ じゅんたろう)

閉じ込められている主役

事情にまかされている。わたしが見に来たこの日のカップルも「ダンスパーティ」が出会いの場であったという。

の挨拶、役所への謝礼の支払いとスムーズに手順が進められていき、ついに本日のメインイベントである賃貸の支払いがおこなわれる。



ヴァルクルは午後二時からはじまる
と聞かされていたが、花嫁のオジである
この家の主人の親族たちがぼつぼつと集
まりはじめたのは午後三時を過ぎてから
だつた。彼らは各々バナナや冷凍の羊肉、
魚やコンビーフの缶詰など、ヨメ側から
ムコ側に贈るための食料を携えてきていた。
必要なモノがそろい、必要な人が集
まり、だんだんと会場の準備が整つてい
く。そんななかで気にかかるのは、本日
の主役であるはずの花嫁の居場所だ。彼
女は会場に面した小屋のなかにいる。そ

貿易のノシート

トから二束ほどの貿貨を取り出して、
「側の親族が座つてゐる前に置いた。

かつたかのように、幸せそうに笑っていた。
わたしはその笑顔を見て、なんとなく胸
をなでおろしたあと、ポケットから取り

出したフィールドノートに「買うつてなんだ？」と大きく書き付けた。その答えはまだわからない。

閉じ込められているようでもある。ようやくムコ側の親族団が到着したのは、日もかなり傾いてからだった。二台のトラックに総勢二〇人ほどの一団を率いるのは花婿のオジ。結婚する当花婿の姿は見当たらない。花婿は村で待つているものなのだという。

早くしないと日も暮れる。パンダヌスの葉で編まれたマットを挟んでヨメ側とムコ側が正対して座り、さつそく「買う儀礼」がはじまつた。牧師のお祈り、村長

賃貸のレシート